

重点施策別評価表

1-1 魅力ある図書館づくりの推進

全年齢層へのサービスの充実を目指し、利用促進につながる事業を実施する

項目	28年度目標	達成値	達成率	事業効率性	今後の方向性	自己評価	外部評価
① 司書職員数(全館)	30人	28人	93%	良い	拡大・充実	4	4
② 録音資料作成数	3点	3点	100%	やや悪い	継続・維持	5	4
③ 新規ボランティア数	20人	22人	110%	非常に良い	拡大・充実	5	4
④ ボランティア養成講座回数、参加者数	5回・20人	5回・48人	100%	非常に良い	継続・維持	5	5
⑤ おはなし会回数	360回	356回	99%	非常に良い	継続・維持	5	5
⑥ おたのしみ回延べ回数	5回	5回	100%	良い	継続・維持	5	5
⑦ 研修会開催年1回	1回	0回	0%	良い	継続・維持	1	1
⑧ 人形劇の参加者数	80人	64人	80%	良い	継続・維持	4	5
⑨ あれこれブックガイドの配布	16箇所	16箇所	100%	良い	継続・維持	5	5
⑩ 読書ラリーの実施(修了者)	100人	71人	71%	やや悪い	継続・維持	3	4
⑪ 文学講演会	100人	93人	93%	良い	継続・維持	4	5
⑫ 一日の夜間開館入館者数(分館含)	400人	407人	102%	良い	継続・維持	5	5
⑬ 一日の閲覧席利用席数(本館のみ)	20席	17席	85%	良い	継続・維持	4	4
⑭ 入館者数	720,000人	698,374人	96%	良い	拡大・充実	4	4
⑮ ウィークエンドシネマ回数・評価内容	28回	28回	100%	良い	継続・維持	5	5
⑯ モニタリング回数、評価内容	2回	2回	100%	良い	継続・維持	5	5
⑰ 図書館評価の実施と公表	実施・公表	実施	80%	良い	継続・維持	4	4

★自己評価

- 評価の理由
- ・ 司書職員数は、司書講習受講者1名の司書資格取得により、目標に近づいたので4と評価した。
 - ・ 録音資料作成は、目標に達しているので5と評価した。
 - ・ 録音資料作成数に関しては、基本的に利用者からの依頼があった際に作る形なので、調整が難しい。
 - ・ ボランティアの新規入会人数に関しては、養成講座に50人以上の申し込みがあったことから、既に入会している方の申し込み数を差し引いても十分期待できる数で、実際の入会者数は目標に達しているので5と評価した。
 - ・ おはなし会、おたのしみ会は順調に実施できており、目標回数には達しているので5と評価した。
 - ・ 人形劇は今回初めて分館での開催となり、参加者数は目標値に満たなかったため4と評価した。
 - ・ あれこれブックガイドは、配布方法を市内の連絡便にしたことにより、職員負担が減ったので事業効率を「良い」とした。
 - ・ 読書ラリーは方法を変えたことにより達成者数は昨年以上ではあるが目標値に達していないので低い評価とした。
 - ・ 読書ラリーの参加者数は昨年の12人から23人に大幅に増えたので高評価した。(藤沢)
 - ・ 夜間入館者数は分館も順調で、目標値を上回っているため5と評価した。
 - ・ 閲覧席開放事業は、昨年度より若干減っているため3と評価した。また、費用対効果の点からは「見直し」すべきものと判断している。
 - ・ 入館者数は、目標値に達していないため4と評価した。(開館日数の減 8日)ただし、入館者数は約10%、16,000人以上増えた。(藤沢)
 - ・ ウィークエンドシネマは順調に実施できたため5と評価した。
 - ・ モニタリングは、予定通り2回実施できたため5と評価した。
 - ・ 図書館評価は公表ができていないため4と評価した。

- 課題
- ・ 本館は、異動によって、司書資格職員の数が増減してしまう。(平成29年度△2人)
 - ・ 事業に関するボランティアの新規加入はハードルが高くないが、運営に関するボランティアの導入方法等が難しいのでその方法を見つけるようにしなければならない。
 - ・ 土曜日の午後おたのしみ会等を開催すると団体参加が見込めないため、参加者数の把握が難しい。(金子)
 - ・ あれこれブックガイドの配布、読書ラリーは、学校の取り組み内容が把握できていないので協力体制がとりづらいことが課題である。
 - ・ 事業参加者の増が入館者数増に結び付いていない。(金子)

- 次年度への改善点
 - ・ 司書職員の重要性を財政当局に強くアピールできるように実績を積み重ねていく動きをしていく。(レファレンス対応他)
 - ・ 司書職員の重要性(レファレンス対応)を財政当局へ伝え、司書講習費用を隔年から通年にしてもらうに努める。
 - ・ 非常勤職員のモチベーションアップを図るため、無理のない範囲で、自主事業の企画立案から運営までの作業分担を依頼しながら資格取得を促進する。
 - ・ ボランティアの組織化を達成し、ボランティア募集体制づくりを確立する。(図書館HPでの募集やポスター、チラシの作成、研修会実施など)
 - ・ 新規ボランティアのうち図書館業務へのお手伝いとしては、カウンター内の業務に限定することなく公民館サークル等との幅広い連携の中で色々な協力体制を推進する。(金子)
 - ・ おはなし会は、回数は上限に近いので、年齢別の開催等を検討し参加者の拡大を図る。
 - ・ おはなし会のあとで、折り紙やかかるた大会を実施し、好評を得たので継続して実施していきたい。(藤沢)
 - ・ 閲覧席開放事業の総括をおこなうための資料作りを早期に行い、今後の事業の方向性を検討する。
 - ・ 読書ラリーは方法を見直して達成者を増やすことを検討する。
 - ・ 読書ラリーは、期間中進捗状況等、小学校と情報共有し、あわせて読書シールとの連携等を検討する。
 - ・ 分館の自主事業のうち、藤沢のぬいぐるみおとまり会は、回数を増やして行う。
 - ・ 録音資料は全国から相互貸借できるため、積極的に大量に作成する必要はないが、今後も現状を維持し、拡充に努めていきたい。
 - ・ 入館者数については、図書館だより、分館だよりやイベントを通じて、常に情報発信を継続するとともに、公民館利用団体と図書館資料をつなぐ企画を推進する。(金子)

★外部評価

- 評価の理由
 - ・ 人形劇、文学講演会は参加者が満足されていたと思われるので5と評価した。
 - ・ 文学講演会は、興味深いもので参加してよかったと思える会でしたし、参加者数もこれだけあればよいと思いますので5と評価しました。
 - ・ 録音資料作成数は、目標達成率では良好ですが、事業効率性が「やや悪い」と評価されていますので、何が問題か不明ですが改善すべき点があれば実行してほしいという主旨で4と評価しました。
 - ・ 読書ラリーも修了者が71人もいるのは立派なことで、方法を色々と工夫されている結果だと思われるので4と評価しました。

- 課題
 - ・ 全館で利用者を増やすという目標設定が欠けている。
 - ・ 文学講演会については、参加者に興味のあるジャンルのものであるべきである。
 - ・ 読書ラリーは、達成率アップのため、実施方法の検討、内容の見直しをしてもよいと思われる。
 - ・ 自己評価が1の項目については早急に改善すべきである。また、目標設定自体に問題があるのならば、次回目標設定時に項目の削除など検討を要する。
 - ・ 藤沢分館での「春のおはなし会SP」と「夏のおはなし会SP」は、実質、「冬のおたのしみ会」と同様に行われているので、「おたのしみ会」の実施回数に加えた方が良いのではないか。

重点施策別評価表

1-2 図書館資料の充実

予算の適正な執行を行い、資料の刷新を図って、市民満足度を高める

項目	28年度目標	達成値	達成率	事業効率性	今後の方向性	自己評価	外部評価
① 市民一人当たり資料点数	3.9点	3.8点	97%	良い	拡大・充実	4	4
② 年間貸出点数	1,000,000点	897,367点	89%	良い	拡大・充実	4	4
③ 子供向け資料	2,750点	2,613点	95%	良い	拡大・充実	4	4
④ 関心が高い分野の資料	7,000点	7,713点	110%	非常に良い	拡大・充実	5	5
⑤ 参考図書資料	200点	294点	147%	非常に良い	拡大・充実	5	5
⑥ 大活字本	100点	106点	106%	非常に良い	拡大・充実	5	5
⑦ NPO雑誌寄贈サポート	39種	40種	102%	良い	見直し	5	5

★自己評価

○ 評価の理由

- ・ 図書購入に関しては、概ね順調に購入できたので5と評価した。
- ・ 大活字本の出版数が少ないため、情報収集の徹底が課題である。
- ・ 大活字本は発行された資料は全て購入している。(出版社が2社限定、発行数も少ない)
- ・ 子ども向け資料については、状態が悪くなった人気の本の買い替えや、学校などから定期的に借りられる調べ学習用の本の購入など、早いうちから準備が出来たが、目標値には達していないので4と評価した。

○ 課題

- ・ 購入予算の確保及び資料所蔵場所の確保が喫緊の課題である。
- ・ 参考資料は、高価なため購入時期が遅くなるので、その購入決定の決断をさらに早くすることが課題である。
- ・ 予約本を延滞する利用者が多く、クレームの原因になっていることが多いので、延滞対策が課題である。
- ・ NPO寄贈サポート事業については、スポンサーの意向を反映して一部雑誌を選定している。また、近年は休刊雑誌も多く、年度途中で選定雑誌が変わることもある。現在は臨機応変に対応しているが、スポンサーの意向も反映しながら雑誌を選定し、休刊等の場合は図書館、スポンサー、書店と情報共有し、同じジャンルの別の雑誌を選定できるのは効率的であるが、事務的には非効率である。
- ・ NPO雑誌寄贈サポート事業において、協賛企業が毎年変わらない。新規企業の開拓が必要ではないか。
- ・ とよだかずひこ氏の講演会の際に大型紙芝居用の舞台を購入したので、今後その舞台で使用できるような資料を収集していきたい。

○ 次年度への改善点

- ・ 必要な資料購入予算確保のため、財政当局へのアピールのための情報収集を積極的に行い、実施計画に計上する裏づけとする。併せて、市民の資料に関するニーズを把握するためリクエストの傾向分析やアンケート調査を実施し、真に市民が必要としている資料を収集する。
- ・ 延滞者に対するペナルティを具体的に検討する。
- ・ 大活字本の出版事情を的確に把握し、時期を逸しないように購入する。
- ・ 高齢者など、情報弱者対応へのサービスは拡充する必要があるが、大活字本だけでは不十分である。
- ・ より使いやすい、ハンディ型の拡大読書器などの設備が必要と考える。(ページに置くだけで文字を拡大するタブレット端末)
- ・ 作業室の書庫を整理して書庫の収容能力を増やし、新規資料の受け入れ体制を整備する。(金子)

★外部評価

○ 評価の理由

- ・ 全体的に評価が高いように思えますが、達成率が高いのでそうなのかとも思いますし、予算が少ないので仕方がないのかなとも思えます。
- ・ 限られた予算の中で努力しているので5の評価でよいと思う。

○ 課題

- ・ 資料購入の予算が潤沢になるように財政当局へのアピールを積極的に行うことが必要である。
- ・ 図書館の在り方も時代とともにニーズも変化してきます。新しい試みとして佐賀県武雄市の事例もあります。今後も市民のニーズを取り入れられるように予算化に努めるべきである。
- ・ 利用制限開始の際には、利用者に対し十分な周知をするべきである。

重点施策別評価表

1-3 学校等と連携した読書活動の推進

市民の読書活動支援のために学校や関係各所と連携を強化し、ボランティアを支援する

項目	28年度目標	達成値	達成率	事業効率性	今後の方向性	自己評価	外部評価
① 図書館見学	16校	15校・1,196人	94%	良い	継続・維持	4	4
② 利用教室	16校	15校・1,189人	94%	良い	継続・維持	4	4
③ 中学校社会体験チャレンジ	11校	11校・26人	100%	良い	継続・維持	5	5
④ プチ一日図書館員	8回・100人	8回・94人	94%	良い	継続・維持	4	4
⑤ 学校図書館ボランティア研修会	2回・80人	2回・56人	70%	良い	継続・維持	3	3
⑥ 移動図書館車の学校定期巡回	8校	8校	100%	良い	継続・維持	5	5
⑦ 配本サービス	35箇所	31箇所	88%	良い	継続・維持	4	4
⑧ 庁内イベント協力	5箇所	5箇所	100%	良い	継続・維持	5	5
⑨ ブックスタート関連事業	12回	12回	100%	良い	継続・維持	5	4
⑩ ブックスタート庁内調整会議	2回	0回	0%	悪い	拡大・充実	1	1
⑪ おとなのための朗読会(西武)	1回・60人	1回・53人	88%	良い	継続・維持	4	5
⑫ 古典朗読会(藤沢)	10回	12回	120%	良い	継続・維持	5	5
⑬ 工作教室(藤沢)	1回・50人	1回・28人	56%	やや悪い	継続・維持	3	3
⑭ とよたかずひこ講演会	1回・80人	1回・60人	75%	良い	継続・維持	4	5

★自己評価

- 評価の理由
- ・ 図書館見学、利用教室は学校の事情により不参加の学校があったので4と評価したが、子どもたちと図書館をつなぐ事業として例年通りの成果が挙げられたと思う。
 - ・ 中学校社会体験チャレンジは、目標通り受け入れできたので5と評価した。
 - ・ プチ1日図書館員は、西武でも実施し、4回で22名の参加があり、高評価できる事業となった。
 - ・ 学校ボランティア研修会については、人数は目標に達しなかったが、修理の場所や道具の関係を鑑みると56人がちょうどよい人数と思われた。
 - ・ 配本サービスについても、例年とほぼ同じ学校・団体からであるが、定期的な利用があり、目標に近づいているので4と評価した。
 - ・ 大勢ではないが、移動図書館では各ステーションにおいて、資料の受取りや貸出として、小学校でも学校によっては大勢利用されているので 高評価とした。
 - ・ 小学校においては、配車時刻が限られるので利用の少ない学校があってもやむを得ない。
 - ・ 工作教室は、参加者の満足度は高かったが、目標人数に比べると少なかったので3と評価した。
 - ・ 「とよたかずひこ講演会」は、人数としては4の評価であるが、参加者からは好評を得ていた。

- 課題
- ・ 図書館見学では事前の名簿を借用しての利用者カード作成に手間がかかっている。また、名簿の不備があっても個人情報を出せない生徒等がいるので対応が難しい。
 - ・ 図書館見学の申し込み締め切りから実施までの期間が短いため準備対応が困難である。
 - ・ 分館において、図書館見学に4クラス一度に来館されたり、利用教室で4クラス同時開催時の説明対応人員のやりくりが難しい。
 - ・ 利用教室の図書館説明は、口頭だけでなく、プレゼンテーションの方法を色々と改善を図りながら理解を深めてもらうように努める。
 - ・ 配本サービスについては、年々需要が増えており職員の負担が急増している。
 - ・ ブックスタート関連事業については今年度も具体的な話が進んでおらず、「ブックスタート」そのものについての各課との調整の場が必要である。

- 次年度への改善点
- ・ ブックスタート関連事業は、他の分館の応援をいただき実施したが、今後は、職員2名体制で単独で実施できるようにする。(金子)
 - ・ 図書館見学の申し込み用紙に貸出希望の有無を記載する欄があったほうがよい。
 - ・ 図書館見学は利用者カード作成の必要があるため、学校とのやりとり等に時間を要するので申し込み締め切りからの時間的余裕をとれるように努める。

★外部評価

○ 評価の理由

- ・ 古典朗読会、とよたかずひこ講演会は、参加してよかったと思えるものでした。また参加者数もこれだけあればよいと思いますので5と評価しました。
- ・ ブックスタート関連事業は回数12回と多く実施されていますが、予防接種の時と、親子にとって少々不安で落ち着かない会場での実施が残念です。
- ・ おとなのための朗読会、とよたかずひこ講演会は参加された方が満足されていたと思うので5と評価しました。

○ 課題

- ・ 図書館見学、図書館利用教室に不参加の学校の児童へのフォローはあるのでしょうか。もしないとしたらフォローをしていくべきかと思えます。
- ・ ブックスタート庁内調整会議は定期的に行う必要がある。
- ・ ブックスタート関連事業は、回数よりも事業効率や「質と内容の充実」に目を向けた計画が望まれる。
- ・ 自己評価が1の項目については早急に改善すべきである。また、目標設定自体に問題があるのならば、次回目標設定時に項目の削除など検討を要する。
- ・ 学校側と連絡を密に取り、お互いの予定を調整するべきである。

重点施策別評価表

2-1 図書館網の整備

移動図書館運営の見直しと代替案である分室網の整備を促進する

項目	28年度目標	達成値	達成率	事業効率性	今後の方向性	自己評価	外部評価
① システムネットワークダウン数	0回	0回	100%	良い	継続・維持	5	5
② ダイア4市相互利用者数5%増	44,287人	40,270人	90%	良い	継続・維持	4	4
③ 図書館部会会議開催数	3回	3回	100%	良い	継続・維持	5	5
④ 青梅市との相互利用促進	100人	227人	227%	良い	継続・維持	5	5
⑤ 分室網の整備方法の研究と関係各課との協議	2回	0回	0%	悪い	拡大・充実	1	1
⑥ 次期システム更新準備進展状況(調査研究)	実施	実施	100%	非常に良い	継続・維持	5	5
⑦ 次期システム更新(業者選定)	決定	決定	100%	非常に良い	廃止	5	5

★自己評価

○ 評価の理由

- ・ システムネットワークは1度もダウンせず快適に稼働しているため5と評価した。
- ・ ダイア4市の相互利用者数の増加目標には若干達していないため4と評価した。
- ・ 青梅市との相互利用者数は順調に増加しており、すでに目標数に達しているため5と評価した。特に金子は前年度比184%と高い利用率となっている。
- ・ 次期システムの稼働は1月から順調で、特段の問題もなくスタートできているため5と評価した。今後の方向性は「廃止」とした。
- ・ 次期図書館システムの選定については業者を決定し、具体的な内容・工事についての調整会議が進められた。
- ・ 入間市には延滞に関するペナルティがないため延滞を軽視している利用者が多いので、早期のペナルティ導入が課題である。

○ 課題

- ・ 青梅市民の登録人数をいかにして増やすか検討する。(青梅市民へのPR方法等)
- ・ 分館網の整備方法と関係課各課との協議については、公共施設再整備計画で図書館の方向性が示されるまで一時中断せざるを得ない。
- ・ 青梅市との相互利用であるが、入間市立図書館で貸出を行った青梅市民は1年間で227人と目標値100人はクリアしているが、さらに拡充する必要がある。

○ 次年度への改善点

- ・ 青梅市立今井図書館が最も近くにあるので、情報交換を図りながら利用者増への対応を検討する。(金子)

★外部評価

○ 評価の理由

- ・ 図書館の自己評価とほぼ同意見であり、特別な意見はありません。

○ 課題

- ・ 自己評価が1の項目については早急に改善すべきである。また、目標設定自体に問題があるのなら、次回目標設定時に項目の削除など検討を要する。

重点施策別評価表

2-2 図書館施設の計画的な整備

設備や内装等の計画的な改修等を行い、快適な読書環境を確保する

項目	28年度目標	達成値	達成率	事業効率性	今後の方向性	自己評価	外部評価
① 本館雑誌架1台購入	1台	1台	100%	良い	拡大・充実	5	5
② その他の館内設備の充実	—	実施	100%	良い	拡大・充実	5	5
西武分館のテーブルと椅子の配置換え	—	実施	100%	良い	継続・維持	5	5
金子分館の椅子・展示用パネル・作業台の購入	—	実施	100%	良い	継続・維持	5	5
藤沢分館のカウンターのレイアウト変更	—	実施	100%	良い	継続・維持	5	5

★自己評価

○ 評価の理由

- ・ 目標どおり、雑誌架1台を入替できたので5と評価した。
- ・ 雑誌の大きさが時代とともに大型化が進む中、これまでの雑誌架では対応できていなかった部分があったので、入替えが出来たのはよかった。
- ・ 計画どおり早期に購入できたので高評価とした。
- ・ 児童コーナーにテーブル2台と椅子8脚を増やして試験前などに活用できたので5と評価した。(西武)
- ・ 椅子、展示用パネル、作業台が購入でき、展示資料を数多く展示できるようになったので5と評価した。(金子)
- ・ カウンターのレイアウトを変え、貸出と返却を完全分離したこと、入間市専用のチラシラックを設置したこと、文庫本、新書など小型の本を前面に出して見やすくするなどにより、読書環境の整備ができたので高評価した。(藤沢)

○ 課題

- ・ 公共施設再整備計画における大規模改修時に適正に更新できるように現状をきちんと把握しておく必要がある。
- ・ 今後も計画的に雑誌架等を更新していけるように財政当局へ要望をしていく。
- ・ 各施設については老朽化が進みつつあるため、計画的な整備、改修が必要である。
- ・ 雑誌架はまだ入替えていない小さいサイズ用のものもあるので、更なる買い替えは必要だと思う。また書架も全体的に老朽化が進み、利用者の安全の為に入れ替えが必要だと思う。
- ・ 展示本を展示するスペースと什器が少なく展示量が限られている。
- ・ 老朽化した書架が多くある。利用者の安全面への配慮から計画的な購入配置が必要である。
- ・ 各施設については老朽化が進みつつあるため、計画的な整備、改修が必要である。

○ 次年度への改善点

- ・ 展示スペース確保のため什器購入を検討する。

★外部評価

○ 評価の理由

- ・ 図書館の自己評価とほぼ同意見であり、特別な意見はありません。

○ 課題

- ・ 図書館施設の計画的な整備、老朽化した書架などは順次購入が必要である。
- ・ 事業等で多くの参加者を募っている割には駐車場の台数が少ないのが悩みかと思われます。近くの公共施設、学校、スーパーなどと協力関係を作って駐車場を増やしていくことも必要である。

重点施策別評価表

3-1 ホームページの活用

地域情報拠点施設としての役割を果たし、施設の意義を高める

項目	28年度目標	達成値	達成率	事業効率性	今後の方向性	自己評価	外部評価
① ホームページメンテナンス	12回	7回	58%	やや悪い	継続・維持	3	3
② パスワード登録者数	2,000人	2,741人	137%	良い	拡大・充実	5	5

★自己評価

○ 評価の理由

- ・ ホームページのメンテナンスは担当職員が決定しておらず、定期的なメンテナンスは十分とは言えないため3と評価した。
- ・ ホームページメンテナンス数は、業者が行ったホームページの改修回数である。
- ・ 業者以外の、お知らせや行事案内は随時更新しているため、高い評価ができる。
- ・ パスワード登録者数は昨年度(1,334人)の2倍強となったため5と評価した。

○ 課題

- ・ ホームページ掲載内容の正確性及び適時性に努める必要がある。
- ・ タイムリーな更新作業実現のため、担当者を専任とする必要がある。
- ・ 新システムでは、図書館からのお知らせメールを「希望しない」に設定した利用者以外全員に送信するため、件数が大幅に増える可能性がある。
- ・ ホームページのメンテナンスに関しては、現システム会社の更新頻度では少ないうえ、費用負担しないと直せない部分があるなど見直しが必要。
- ・ 新システムの選定時に、ホームページのメンテナンス性について考慮する必要があったと思われる。

○ 次年度への改善点

- ・ 各担当者が自身の手で掲載内容の更新を行える部分が広がったので、的確に、適宜更新作業に努める。
- ・ ホームページ満足度の調査のため、アンケートの実施も検討すべきである。
- ・ できるだけメールアドレスの登録を勧めて、予約確保された資料が取り置き期間を過ぎてキャンセルされないようにする。

★外部評価

○ 評価の理由

- ・ 図書館の自己評価とほぼ同意見であり、特別な意見はありません。

○ 課題

意見はありませんでした。

重点施策別評価表

3-2 広報紙等の活用

広報紙等により、地域情報や行政情報、図書館情報を早く、正確に提供することに努める

項目	28年度目標	達成値	達成率	事業効率性	今後の方向性	自己評価	外部評価
① 毎月1日号に図書館記事掲載	12回	12回	100%	良い	継続・維持	5	5
② 図書館関連の特集記事掲載	1回	1回	100%	非常に良い	継続・維持	5	5
③ 図書館だよりの発行	4回	4回	100%	非常に良い	継続・維持	5	5
④ 金子分館だよりの発行（11月より）	5回	5回	100%	非常に良い	継続・維持	5	5

★自己評価

○ 評価の理由

- ・ 広報紙の活用という施策は十分に活用され、かつ市民への情報提供方法として適している。目標どおり進められたので5と評価した。
- ・ 各分館の事業も全て掲載されたので高評価とした。

○ 課題

- ・ 特に大きな課題はないが、広報担当課との連絡調整を密に行って正確な記事掲載を行うことが必要である。
- ・ 広報紙は毎月1日号の掲載のみで、原稿の締め切りが1か月半前という制約の中、活用しづらい面がある。
- ・ 金子分館だよりは回覧配布なので、各家庭の手元に残らない。
- ・ 広報紙掲載が毎月1日号のため、広報が各家庭に配布される期間を考慮すると、イベントが月後半に集中する。

○ 次年度への改善点

- ・ 年間事業計画作成にあたって、特集記事掲載内容及び時期も決定し、記事掲載場所を確保するように努める。
- ・ 広報紙の掲載記事には写真等も入れてわかりやすい内容に努める。
- ・ 金子分館だよりを地区内全戸配布できるように検討する。さらに、金子小学校、中学校、第1、第2保育所、第1、第2学童保育室への配布も実施する。執筆も金子地区の方をお願いし、親しみやすい紙面構成とする。（金子）
- ・ 事業開始3か月前までに日程調整を終え、市に企画書を提出して広報いるまの記事掲載に間に合わせる。

★外部評価

○ 評価の理由

- ・ 広報紙等の活用を5と評価しましたが、金子分館だよりの発行は良かったと思います。地域性を生かしたPRは大切ですね。

○ 課題

- ・ 図書館だよりは本の紹介記事が本選びの指針になるので、充実した内容の紹介を継続していくことが必要である。
- ・ 各館では時々のタイムリーな話題に沿って、それに関連した本の紹介・掲示をしているので、今後も充実した内容で継続すべきである。

重点施策別評価表

3-3 各種メディアの活用

広報紙等により地域情報や図書館情報を早く、正確に提供する

項目	28年度目標	達成値	達成率	事業効率性	今後の方向性	自己評価	外部評価
① FM茶笛本のある暮らし出演	52回	50回	96%	良い	継続・維持	4	4
② 入間CATVへの出演	8回	6回	75%	良い	継続・維持	4	4

★自己評価

○ 評価の理由

- ・ メディアには計画どおり出演できているので高評価とした。
- ・ 入間CATVの取材協力は多くできているが、出演回数は目標に達していないので4と評価した。
- ・ 金子では、事前にイベントのチラシを送付し、開催日の1週間前に確認をとり、ほとんどのイベントの取材をうけることができた。

○ 課題

- ・ 入間CATVへの出演が、担当課との調整ミスで年度当初出演することが出来なかったため、来年度は担当課と連絡調整を密にする。
- ・ 広報紙への掲載の都合上、事業が月の下旬に集中し、館ごとに取材が重なる傾向がある。
- ・ FM茶笛で放送されていることを知っている市民が少ないのではないか。PRが必要と感じる。
- ・ FM茶笛の出演は、スケジュール調整が難しい。

○ 次年度への改善点

- ・ 図書館内にFM茶笛の放送告知を掲示したり、図書館だより、分館だよりにも放送告知を行い、利用者の反応を確かめる。
- ・ 入間CATVは、イベント取材以外の活用を検討する。
- ・ 入間CATVの担当者と連携調整を密にし、毎回取材に来てもらうことを目標とする。

★外部評価

○ 評価の理由

- ・ 図書館の自己評価とほぼ同意見であり、特別な意見はありません。

○ 課題

意見はありませんでした。

重点施策別評価表

3-4 自動音声応答システムによる情報提供の充実

デジタルデバイド解消のため情報弱者への情報提供を積極的に行う

項目	28年度目標	達成値	達成率	事業効率性	今後の方向性	自己評価	外部評価
① 利用件数	7,700件	4,497件	58%	やや悪い	継続・維持	3	3

★自己評価

○ 評価の理由

- ・ 自動音声応答システムは、デジタルデバイド解消の手段であり、情報弱者にとっては最良の方法といえる。そのため、達成率は目標に及ばないが今後の方向性を「継続・維持」とした。

○ 課題

- ・ 新システムの内容や操作方法を職員が熟知することが必要である。
- ・ 新システムになり、自動音声応答システムは24時間対応でなくなった。
- ・ 自動音声応答システムの稼働時間を増やすべきである。
- ・ 新システムでは自動音声応答システムの利用件数の統計が出せないため、来年度以降、どのような指標で利用状況を把握すべきかが問題である。

○ 次年度への改善点

- ・ 改善された新しい自動音声応答システムのメリットを広く市民にPRする。

★外部評価

○ 評価の理由

- ・ 図書館の自己評価とほぼ同意見であり、特別な意見はありません。

○ 課題

意見はありませんでした。

重点施策別評価表

3-5 インターネット接続端末の活用

インターネット接続端末に有料データベースを整備し、利用促進を図る

項 目	28年度目標	達成値	達成率	事業効率性	今後の方向性	自己評価	外部評価
① 利用件数	9,400件	8,521件	90%	良い	継続・維持	4	4

★自己評価

○ 評価の理由

- ・ 目標値には若干届いていないため、4と評価した。
- ・ 同じ利用者が長時間使っている部分があるものの、利用状況としては良いと思う。新聞データベースの申し込みも前年度に比べて若干増えてきているように思う。
- ・ 西武分館は、利用率が約10%(202件)増加しているのは評価できる。

○ 課題

- ・ まだまだ特定の利用者が占拠する状況があるため、本来の利用目的にはそぐわない利用がされているように見受けられることがある。解消方法として、広く多くの市民に利用していただけるようにPRしていく必要がある。
- ・ ヨミダス(有料データベース)専用の端末を作り、利用者がプリントアウトできる環境を整えるべきと考える。
- ・ ヨミダスのプリントアウトは職員が行うが、プリンターはカウンター内に設置し、プリントアウト分の料金は利用者に請求するなどの方法。
- ・ 近隣の市立図書館の状況を見ると、官報情報検索サービスや国立国会図書館データベースなど、インターネット端末を利用した検索サービスの取組がやや遅れているように感じる。追加費用があまりかからないものから、少しずつ導入を進めてもよいのではと感じる。
- ・ 利用環境としてはプライバシーにあまり配慮されていない。
- ・ 調べもの以外の目的で使用する人がいる。(ゲーム、動画鑑賞他)

○ 次年度への改善点

- ・ 継続利用、特定利用者の占拠状態解消のため、1回の利用時間の長さを短縮することを検討する時期に来ている。
- ・ 利用者用端末はシステム業者によるメンテナンスを行い、快適な環境を整備する。

★外部評価

○ 評価の理由

- ・ 図書館の自己評価とほぼ同意見であり、特別な意見はありません。

○ 課題

意見はありませんでした。